

この CD-ROM には、以下の 4 種類の語彙表を収録した。

語彙表の種類	ファイル名
1. 五十音順語彙表（自立語）	goihyo_50_ver.1.0 (.txt/.xls/.pdf)
2. 度数順語彙表（自立語）	goihyo_frq_ver.1.0 (.txt/.xls/.pdf)
3. 五十音順語彙表（付属語）	goihyoJ_50_ver.1.0 (.txt/.xls/.pdf)
4. 度数順語彙表（付属語）	goihyoJ_frq_ver.1.0 (.txt/.xls/.pdf)

1～4 のそれぞれのファイルについて、テキストファイル、エクセルファイル、pdf ファイルの 3 種類を用意した。基本的にその 3 種類の内容は同じである。

以下、それぞれの表について、各項目を説明する。

■五十音順語彙表（自立語）

調査対象中に現れたすべての自立語 59,222 語について、見出しの五十音順に配列した。各項目の解説は次のとおり。

1. 見出し

同じ語の範囲にあると認めた語を、原則として一つの形で代表させて示したが、「アタタカ・アタタカイ」「レル・ラレル」など「・」で併記した見出しがある。

見出しの表記はカタカナで示した。外来音「v」については、「ヴ」を使わず、バ行で示した。したがって、「ヴィトン」「ヴィヴァルディ」は、「ビトン」「ビバルディ」で書き表してある。

見出しは、一般的な読みに基づくようにしたが、雑誌九十種調査との比較のため、見出しの形を『現代雑誌九十種の用語用字全語彙・表記フロッピー版』（三省堂、1997）に合わせたものがある。

なお、エクセルのファイルでは、2 行目以降に、1 字下げで 2 次見出しを示した項目がある。これらは、主に動詞、形容詞・形容動詞における派生形を示したものである。例えば、動詞に「れる・られる」「せる・させる」が付いた形及び可能動詞の形、形容詞・形容動詞の語幹に「さ」「げ」が付いた形などである。この 2 次見出しは、以下の「全体度数」「使用率 (%)」「本文度数」「広告度数」及び雑誌の各ジャンルにおける内訳の項目でも使われる。

これを利用して、例えば、次のような事実を読み取ることができる。

「アイスル」の見出しの2次見出しとして、「アイサレル」「アイセル」があるが、それぞれ使用度数は、19回、2回であること、「アイサレル」の19回は、本文に13回、広告に6回現れていること。「アイサレル」の19回のうち、13回が「女性・服飾」のジャンルの雑誌に現れていること。

なお、テキストファイルでは、2次見出し同士を「★」で区切った。

2. 語種

語種については、次の7種類を立てた。()内は、本表における略号である。

和語 (和)、漢語 (漢)、外来語 (来)、混種語 (混)、人・姓、人・名、地

外来語の中には、いわゆる外国語も含まれている。多くは、英語であり、広告や引用等の外国語文脈で使用されたものであるが、これらを厳密に区別することが難しかったため、すべて外来語として扱った。

人名、地名は、語種ではないが、語種の認定を行わないため、便宜上このカテゴリーに入れてある。人名のうち、姓か名か決めがたいものは、「人」とだけ表記した。また、「ナベサダ」(渡辺貞夫の略)のような姓と名が略されて1単位となっているものは、「人・姓名」とした。

なお、語種の判定は、原則として新潮社『新潮現代国語辞典』第2版(以下、『新潮』と略す)に依った。

3. 品詞

品詞の認定も『新潮』を参考に行っているが、同辞書の見出しの立て方と本表での見出しの立て方が異なる場合などについては、独自に品詞を与えたものがある。

外来語で『新潮現代国語辞典』第2版に見出しがないものは、三省堂『コンサイスカタカナ語辞典』第3版を参照して品詞を決めた。上記2つの辞書にない場合は、研究者『リーダーズ英和辞典第2版』『リーダーズ・プラス』を参考にした(検索は、ロゴヴィスタ社の電子辞典を利用した)

上記英和辞典の品詞を国語辞典の品詞と併記した場合は、両者を「/」で区切って示した。

例) グッド 感・造/形・名

参照した辞書にない品詞を追加した場合、▲を付した。

例) 祝 名▲・造

※祝日の略としての「祝」を名詞と考え、「名」を追加した。

4. 表記〔注記〕

見出しが通常表記される形を示した。必ずしも実際に出現した形とは限らない。〔 〕内は、意味の理解のために添えた注記である。同音語を区別するための意味の手掛かり、使用文脈や略語の元の形などを挙げた。なお、和語の動詞や名詞で意味の幅を示したい場合は、表記を平仮名にして、〔 〕内に漢字を示した。例えば、「かえる〔変, 換, 代, 替〕」「なく〔泣, 鳴〕」など。

5. 区別

見出しの同定は、「代表形」「語種」「区別」の3つで行った。代表形と語種で区別が付かない場合は、この欄に適宜情報を与えることで見出しの同定を行った。

6. 全体度数

出現頻度を示す。2次見出しの頻度を挙げていないので、エクセルでソートする場合は、この欄が適している。

7. 全体度数（内訳）

出現頻度を示す。2次見出しの頻度もそれぞれ掲げている。エクセルでのソートには適さない。

8. 使用率（‰）

上記全体度数が、自立語全体にしめる割合を千分率で示した。小数点以下5けた目を四捨五入している。

9. 出現雑誌数

「見出し」の語が70誌のうち何種類に現れたかを示す。1種類の雑誌に1回でも出現すれば1と数えた。したがって、1から70までの数字をとる。

「:」以下の部分は、本文及び広告に限った場合の出現雑誌数である。
例えば、「アーティスト」の項に「12:11/3」とあれば、全体で12種類の雑誌に現れ、かつ、本文だけを見た場合、11種類、広告だけを見た場合、3種類の雑誌に現れたことを示す。

10. 本文度数、広告度数

「見出し」の語が本文及び広告に現れた回数を示す。出現が無かった場合は、「-」で示した。「本文度数」と「広告度数」の数を足すと、5の「全体度数」になる。

11. 「総合・文芸」「女性・服飾」「実用」「趣味・娯楽」「芸術・科学」

調査対象となった雑誌70誌を上記5つのジャンルに分類した場合の、それぞれのジャンルにおける出現度数を示す。()内は、それぞれのジャンルの延べ語数に対する千分率である。各ジャンルに分類された雑誌の一覧は、tyosagaiyo (調査概要)のファイルを参照のこと。

12. 出現形の内訳

「見出し」の語が、実際に使用された実例を示す。各例は、半角のスラッシュ(/)で区切り、文字列のJISコード順に配列した。また、それぞれの例には()を付して使用回数を示した。なお、この欄で用いている特殊符号の意味は次のとおり。

{ } …文字の上では現れないが、語として読みを与えた場合、慣習的に補って読むべきもの。例えば、分数を表す1/3における「分(ぶん)」など。

[] …出現形における1つのまとまりを複数の見出しに分割しているもの。例えば、[本・支店]は、「本店」「支店」の2つの見出しを立てたが、実際に出現した形は、「本・支店」である。「なきゃ」等の融合形を分割した場合もこの記法で示した。

▼ …原文が誤植であったことを示す。

この欄で「=」で示した文字は、JIS第二水準までで対応できなかった文字で

ある。

■度数順語彙表（自立語）

調査対象中に出現したすべての自立語 59,222 語（順位は 30,357 位まで）について、出現度数の高い順に配列した。各項目の解説は五十音順語彙表（自立語）のものを参照せられたい。順位は、同じ出現頻度のものが複数続く場合は、その個数分だけ順位を欠番にしている。したがって、2 位の語が 3 個あれば、次は 5 位となる。

■五十音順語彙表（付属語）

調査対象中に出現したすべての助詞・助動詞 175 語について、和語系のものと外来語系のものを分けてそれぞれ見出しの五十音に配列した。なお、ここで言う付属語には、助詞・助動詞のほかに、英語やフランス語の冠詞、前置詞を含む。

■度数順語彙表（付属語）

調査対象中に出現したすべての助詞・助動詞 175 語（順位は 136 位まで）について、出現度数の高い順に配列した。各項目の解説は五十音順語彙表（自立語）を参照せられたい。

以上。